

えんだより

2024年

8月号



NO.221

シャローム三育保育

気象情報などで“災害級”という言葉を使うことが増えた気がします。猛暑や豪雨などの気象も日常的になれば“異常”ではないということでしょうか。慣れることは必要ですが、慣れ過ぎると大事になることがあります。今できることからコツコツと、子どもたちの未来＝地球の未来のために。

園長 村上 渉



避難訓練の様子も配信いたしますのでご覧ください。

今月の予定

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5 礼拝 英語教室	6 体操教室	7	8	9	10
11 山の日	12 振替休日	13	14 避難訓練	15	16	17
18	19 礼拝 英語教室	20 体操教室	21	22	23	24
25	26 礼拝 英語教室	27 体操教室	28 誕生会	29	30 保育園職員会議	31



「自分でやりたい」を大切に。

先日、当園恒例の食育「さかなのつかみ取り」を行いました。食べるためには、まず獲らなければなりません。炭火の準備をしながら見ていた私も「そうじゃなくて」と、つい手や口が出そうなところをぐっと抑えて「がんばれ」と応援していました。果敢に魚を追い掛け回す子から、手を出して待っている子、じっと見ている子など、子どもたちひとり一人の性格が表れていましたが、みんなに共通して「魚を獲りたい」という気持ちはその目に表れていました。次第に魚の動きに慣れたのか、あるいは魚の動きが鈍くなってきたのかはさておき、子どもたちは無事にお魚をゲットすることができました。

どんなことでも“コツ”をつかめばなんてことはありませんが、このコツをつかむまでが試練です。コツは人から教えてもらってもうまくいくとは限らないし、コツを自分の経験からつかむことで「自分のもの」になります。私たち大人は、過去の経験が積み重なって今があります。「験」にはあかし、しるし、試みるなどの意味があるように、自らの身をもって得たものです。大切なことは結果ではなく、自身から表れる興味や、挑戦する気持ち、勇氣です。子どもたちにとってはいつでも、どこでも、どんなことも将来に生きるための糧です。大人はこれをあたたかく見守ってほしいと思います。

とはいえ、毎日大忙しの生活の中ですべてを子どものペースに合わせることは難しいですね。半分がんばったら、半分はご褒美として手を貸してあげるなど、できなことを指摘するのではなく、タイミングや加減を図りながら、まずはその頑張りを認めてあげてください。

園長

